



平成27年7月23日  
国土交通省中部地方整備局

## ～海外港湾技術者の技術力向上に貢献～ 海外16カ国の研修員が名古屋港を視察しました。 (開催報告)

### 1. 概要：

独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施している、平成27年度課題別研修「港湾開発・計画（港湾技術者のための）」の一環として、平成27年7月16日（木）に海外16カ国19名の研修員を名古屋港にて受け入れ、港湾施設の視察を行いました。

研修員は、アフリカ、中東、南米、南太平洋、アジア等の港湾技術者で、自国の港湾を発展させるため、日本の港湾開発、港湾建設等の技術を学んでいます。

名古屋港の視察では、物流施設の一つであるTCB（飛島コンテナ埠頭株式会社）を訪問して、日本初の自動化コンテナターミナルの荷役作業を視察しました。

\*TCBIについては、以下のウェブサイトからご覧になれます。

<http://www.tcb-terminal.co.jp/index.html>



【名古屋港 TCB の荷役状況を視察】

### 2. 研修の様子

別紙 ※研修の状況写真がご希望の方は対応いたしますので、お問い合わせください。

3. 配布先： 中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ  
港湾空港タイムス、港湾新聞、日本海事新聞、海事プレス

### 4. 問合せ先：

中部地方整備局 港湾空港部 (<http://www.pa.cbr.mlit.go.jp/index.html>)

港湾物流企画室長 柴田（しばた）、課長補佐 澤田（さわだ）

Tel 052-209-6330 Fax 052-203-9739

## □研修の様子(詳細)

本研修は、それぞれの国が取り組んでいる港湾政策について、研修員相互で討論し成果を自国に反映させ、自国の港湾にかかわる諸問題の解決と社会経済の発展に寄与することを目的としており、国土交通省港湾局において、1963年から研修員を受け入れています。

### 1. 研修の参加者と行程

(1) 出身国・所属 :

カンボジア、コロンビア、エジプト、ミャンマー、ナウル、パプアニューギニア、フィリピン、サモア、南スーダン、スリランカ、タンザニア、東ティモール、トンガ、トルクメニスタン、ウルグアイ、ベトナムの16カ国から19名

(2) 行程(概略) : 13:30~14:30 飛島埠頭コンテナターミナル視察



【TCBの概要説明を受ける研修員】



【TCB職員と意見交換する研修員】



【自動化コンテナターミナルの遠隔操作室を視察】



【TCBを見学する研修員】

### 2. 視察の様子

●(視察後の感想) 視察後に研修員に感想をお聞きしたところ、

「(フィリピン) 私は、日本のコンテナターミナルの建設技術と港湾運営を学びに来た。日本のアイデアを自国に活かしたい。フィリピンでは、スービック港で新しく港を開発している。視察したTCBは、自動化荷役システムが素晴らしい。このようなシステムをフィリピンでも導入したい。」 「(ウルグアイ) 日本では、いくつものコンテナターミナルを見学した。TCBは、他のコンテナターミナルと比べて、自動化ターミナルで効率化されており働いている人が少ないと感じた。特にAGVは、動線計画がうまくできており、スムーズに動いている、メンテナンス技術も優れている。」といった感想を述べられました。